

紋別ウコイタタ 2020



かいざわこういち
貝澤耕一さん

きょう何とか無事に、アシリチェプノミが終わったんですけど、いま畠山さんと（電話で）話をして分かったように、これは「アイヌのための闘い」であって、畠山さんがクジラ捕りからずーっとアイヌの権利を主張してきて、いまに至っているんです。なかなか畠山さんの意思が通じなくて、このごろようやく少しは広まってきたかな、と。

これはようするに、日本政府がアイヌを^{しいた}虐げ、アイヌの土地を取り上げてしまった、それを隠そう隠そうとしている、だからアイヌの力をなるべく弱めたい、そういう政策がいまも続いている。ですから、いまの知事をはじめ、今度だれが内閣総理大臣になるか分からないけれど、おそらく、いまの体制は変わらないでしょう。

ですから、みんなの声を合わせて、なんとか国に届けて、アイヌの権利——アイヌの権利だけではないんですね、いま日本で苦しんでいる在日の外国人の方々、あるいは同和の人たちも苦しんでいます。そうした人たちを含めて、みんなの権利（を認めて）、みんなが同じだという世の中を作るためには、みんなで団結していかなければならないのかな。宇梶静江さんがしょっちゅう言っています。「アイヌ、手を結べ」と。

どうも、アイヌは狩猟民族だったんで、独り立ちが多いんですね。みんな手をつないで、なんとか国に意見を申し述べる。そして、先住民

2020年9月5日、紋別・モベツ川河口で紋別アイヌ協会主催のカムイチェプノミが執りおこなわれたのに続き、紋別アイヌ協会・畠山敏会長の漁業倉庫で、「アイヌ（＝人）の権利をめざす会」のウコイタタが開かれました。



編集発行 アイヌ（＝ひと）の権利をめざす会
共同代表 貝澤耕一／宇梶静江／萱野志朗／田澤守／OKI
事務局 〒060-0061
札幌市中央区南1西5 愛生館ビル501
NPO さっぽろ自由学校「遊」内
アイヌ政策検討市民会議事務局気付
FAX:011-252-6751 TEL:011-252-6752
kamuycep-project.jimdofree.com

族の政策に進んでいる国々——あまり進んでいないアメリカの先住民族にさえ「日本のアイヌ（政策）は私たちより 50 年遅れている」と言われるんですね。つまり、日本の政策がいかに人を人とみていないか、そういう政策なんで。たしかに狩猟民族で、一人で立ち上がるのもいいかも知れませんが、みんなでどうやって手をつないでいけるか、これからみんなで話し合っていきたいと思います。

というわけで、これを問題提起にして、進めたいと思います。言いたいことがある人、だれでも……。

ながねこうき
長根弘喜さん

ラポロアイヌネイションの中根です。きょうは畠山さんがいない中、行なわれた儀式に参加させていただいて、みなさん、畠山さんに対する思いっていうのが強いと思いました。先住権の問題に関しても、やっぱりアイヌの方々っていうのは、思うところはみなさん一緒だと思うので、みなさん、助け合いながら、この先住権の問題について、がんばっていききたいと思います。

さしままさき
差間正樹さん

同じくラポロアイヌネイションの差間正樹です。サケ捕獲権の確保、なんとかこれを実現したいということで、いま裁判に訴えました。今後、地元でも、社会全般の中でも、いろいろな障害が出てくると思うんですけど、やはりここは、私たちはみんなでひとつになって頑張るってこの困難に立ち向かっていくということがなければならぬと思います。あくまでも漁業に対する権利、自然に対する権利、これを確保するということが私たちの目的です。みなさん、どうぞ応援してください。

たんのさとし
丹野聡さん

ラポロアイヌネイションの丹野です。みなさんと会うのは初めてなんですけど、よろしくお願いします。私たちも先住権の裁判を起こして、何とかがんばろうと思ってるんですけど、なにせ勉強不足の点があって、まだまだこれからなんですけど、どうぞみなさん、ご協力をお願いします。

さしまひろまさ
差間啓全さん

同じくラポロアイヌネイションの差間です。差間啓全といいます。この先住権の裁判を起こしたことによって、私たちも注目されている状況ですが、さきほど貝澤さんがおっしゃったとおり、横のつながりがアイヌにないというのは、私も含めて、思っていることなんですよね。何かのきっかけでひとつのことを、アイヌが動いて、アイヌ同士が密になって、何かひとつのことを訴えるという、そういう活動をするには（どうしたらいいか）。

私ら、道アイヌ協会に所属しているんですけども、やっぱり（道アイヌ協会とは）違った組織、そういう方向性、何かみんな、（道アイヌ



協会や地方協会などの) 組織を外れた動きみたいなものにとって……。まあこういう、ヨソで——ヨソといっても紋別(協会)とは古いおつきあいなんですけども——こういうふうに関を合わせた時に、顔を覚えてもらって、何か動きがあればみんなで賛同して、というふうに思っています。なんとか実現したいなと思っていますし、浦幌は前向きに協力していこうと思っています。今後ともよろしくお願いします。

うかしずえ 宇梶静江さん

いやあ、すごい強いご意見で、私なんか、すごく気強く感じます。やっぱりアイヌがひとつになって、仕事を持たないと。バラバラで、誰かが何かすれば、すぐ(他の誰かが)足を引っぱって、手を出せば足を引っぱられる、これではね、アイヌ民族はひとつになったり、文化伝統を守ったりしていくこと、できないと思います。

わたくし、こんな麗しい顔(うるわ)をしています(笑)、87歳になって、もうすぐあの世から迎えが来るんですけども、その前にちょっと、大法螺(おおぼら)を吹かせてください。「あれは認知症だな」と思ってもいいけど、認知症にしないでください(笑)。じつはですね、最近もちあがった話なんですけども。「アイヌは何をしたいんですか?」って聞かれました、ある人に。私は「アイヌはひとつになって、仕事を欲しいんです」って(答えました)。

島山さんがシャケを捕る運動に賛同して、みなさん、お集まりなんですけども、それには私も賛同しています。アイヌの男の仕事としては、伝統を守っていくことが、アイヌの男がいちばん生き生きとして仕事できることです。女の方は強いから、その生き生きした素敵な男の人たちを支えて伝統を守るんだ、ということを申し上げました。そしたら……。宇梶静江っていうんです、私の名前、ね。「宇梶静江にならカネを出す」っていう人が出たんです。法螺だと思ふような話です。

それはね、あるアイヌに「どうしたいんだ?」って言われたから、「この大地に、たとえばいまは、北海道に(耕作放棄された)農地がいっぱい余っているらしいから、ソバでも作って、自治区を作って、みんなで食うことを考えようや」って言ったら、「ダメダメ、シカが出て全部荒らす」って言われてね、アイヌに。「はあーっ、相談する前からダメダメってきたんじゃ、もうダメだな。そんな考えのアイヌに話したってしょうがない」と、悩んでいました。

したらね、私、「アイヌは何をしたいんだ」と聞かれたその時、「アイ

又は自治区を作って、自分の自治、団体の自治、それからアイヌという言葉は人間という意味だから、シャモの心ある人たちも人間でしょう、アイヌということだから、その人たちもこぞって、この大地を生かして、自分たちの産業を作りながら、国に土地権だとか人権（の保障を訴えて）取り戻して、あらゆる権利を取り戻して、平和を構築していくには、みんなの団結がなきゃだめです」って言いました。そしたらね、どのくらいのものなのか知らないけれど、「そういう気持ちならカネを出す」という人が現れました。これをね、宣言します。

それでね、実行委員会をつくらなければ話にならないんです、ばあさん一人じゃ(実現できない)。それで、とにかく何をしたいか、何をするか、全部その中で自分のしたいこと、そのエリアの中で（構想を）作らないと、いい仕事になっていきません。

そんな話の中で、内地の話ですが、自治区を作って、大きなプロジェクトで、公園を作ったり、畑を作ったり、田んぼを作ったり、店を作ったりして大繁盛している、完成しているところが清里にあるんですね。山梨県のね。そこに見学に行こうかという話が持ち上がったってね。

とにかく自分たちアイヌが一人一人、狩猟やる人もいるし、店をやりたい人もいるし、いろんな産業をしたい人たち、自分がその中で仕事をして、共同体で自治をして、作っていくんだ、っていう気構えのある人で実行委員会を作って。その人たちが何億出してくれるか知らないよ、知らないけども、さっきマスコミの人たちにも言ったんだけど、そういう話があるんだから、あんたがた宣伝して、日本のお金がある人たちに、アイヌに仕事をさせる応援（をする気持ちの）ある人に、金を出して、私たちに仕事をさせてくれるように（伝えるよう）お願いしますって、マスコミの人に訴えました、きょう。

そういう考えで、87歳のばあさんが大法螺を吹いていると思うでしょうけど、どうか自分のことと受け止めて。宇梶静江に金を出すっちゃうから、それはみんなのものですから。よく考えてください。発表は終わりです。手、叩いてくださいよ（笑）。（拍手）

うさてるよ 宇佐照代さん

東京から来たので、あんまり、ほんとはずっとね、端っこにいなきゃいけないかな、と思いながら、だったんですけど。去年も、飛行機（が紋別空港に）着いたらもう、カムイノミもなんも終わっていて、みなさん、帰るところだったんですけど。畠山さんは去年は「もう一個、網がある」と言ったので、「じゃあ（舟に）乗る乗る」と言ったら乗せてくれて、一緒にサケ、捕ったんですよ、私も。すごくいい経験をさせてもらって。その時ほんと、ビデオも撮れて、その後、網を雪江さんと片付けていたら、まあいろいろこう、警察がやってきて、というのがあって、すごい目の当たりにしましたけど。すごく大事なことだと思いますし。

私は釧路出身で、父のほうは標津なんですけど、シャケとはもう、切っても切れないようなところで育ちまして。今は東京のほうでアイヌ料理屋をやりながら、文化活動しております。で、微力ながらなんですけど、



こうやってたまに来させていただいて、見学するだけなんですけど、関東にいるとなかなかちょっと遠いような話になってしまうんですけど、こうやってみなさんと、顔を見ながら交流することが本当に私たちはうれしいですし、何とかこう、もっともっと訴えていけるように頑張りたいと思いますので、たくさんの人たちのご縁があったほうがいいと思いますので、よろしくをお願いします。あ、宇佐照代と申します。ありがとうございます。

きむらふ み お
木村二三夫さん

きょうは、一番うれしいことは、畠山さんの丈夫そうな声を聞いたこと。そして浦幌の若い衆が参加してくれたこと、ホントにうれしく、力強く思っています。畠山さんの投げた石、波紋はずいぶん広がっています。若い人を中心に、今後とも畠山さんの意思を継いでいきたいと思って、俺も微力ながら、参加したいと思っていますんで、若い人ら、よろしくをお願いします。

差間啓全さんのさっきの話に通じるんですけどもね、やっぱりアイヌ民族の「道義」を議論できる部署が絶対これ、必要かと思っています。行政べったりの道アイヌ協会じゃなくて、まともに議論できる部署が絶対必要だなと思ってますんで、ひとつそのへんもよろしくをお願いしますね。

それとあの、権利の問題、もちろん大事な話なんですけどもね。^{しらおい}白老に人質としてとられている先人（遺骨）たちの人権・尊厳。これは絶対大事だと思っています。これは、今を生きる俺たちの人権・尊厳でもあるんでね。浦幌は全部帰ってきたようで、よかったなと思うんですけどね、残りの、さまよっている先人たちも、とにかくふるさとの地に連れ帰って、永久の眠りに就かせてやりたいと思ってますんで、そのこともひとつ、若い人たちに協力してもらってね、広げていきたいなと思ってますんで、ひとつよろしくをお願いします。

しまだ
島田あけみさん

みなさん、こんにちは。神奈川県^{さがみはら}の相模原市から来ました、島田あけみです。私は、アイヌのことはあまり積極的じゃなんですけど（笑）、自分が何者であるかというのを考えたときに、歌や踊りだけがアイヌではない、と。その中で自分が語れるもの、先祖を語れるものがあるのが、アイヌであって、素晴らしいことだと思う。心を強くするためのアイヌというのは……。

私は、ニュージーランドのマオリと交流を始めたんですが、その時に、自分がアイヌであることはいいことだ、ということをはっきり、そのマオリの、ニュージーランドの人たちに教えられて、心を強くすることができたんです。その時に、ああ、私だけじゃなくて、日本に帰って、若いアイヌがたくさんいる中で、踊ったり歌ったりするだけがアイヌじゃなくて、自分たちの権利・主張を發表して、前に進むこと、強さを学ぶべきだと思ったので、ニュージーランドのマオリと今も交流しているん

ですが、ぜひ——。

いまツバサ、隣にいるんですけど、ツバサとかテルちゃんとかも、ニュージーランドと一緒に行っていただいて、政治的とか、踊りの、文化的なこととか、いろいろ見てきたので、その思いみたいなのもあって、いまツバサもテルちゃんもすごく頑張ってくれてるんだなって思っているの、ぜひ浦幌のみなさん、ニュージーランドのマオリと交流してください。体形がなんか似てます（笑）。よろしくお願いします。

おきつばさ
沖津翼さん

みなさん、こんにちは。札幌から来ました、沖津です。これ、先住権についてのディスカッションなんですか？「話し合い」って聞いてたんですけど、すげえカメラたくさん、いっぱいいて、どう考えても何か話し合える感じじゃないなっていう（笑）。

先住権のことっていうのは、たくさんあると思うんですけど、ついこないだですけど、浦幌が国と北海道を（相手に）シャケの漁業権を認めさせるっていうことで提訴するっていう、非常に大きな行動にでたと思うんですけど、これはもう本当に、すごい大きなことだと思うんですね。

なんですごく大きいかというと、今までアイヌからこういう裁判っていうのは、たぶん起こされたことはないと思うんですね、このくらい大きいって。まあ、^{びらとり}平取のダム裁判とかありましたけど、それと同じくらい大きいことだと思うんですけど。でもこれって、われわれアイヌからしたら、われわれアイヌとして生きる者たちからすれば、先祖たちが持ってた当然の権利なんですか？そのことを今になって、いま21世紀のね、平成も終わって令和のこの時代に、いまようやくこういう話ができるっていうところまで、たぶん来たと思うんですね。アイヌが、ですね。

ここまでくるのに、北海道が日本に植民化されてから150年。150年経って、ようやくこの議論を公の場でするようになった、っていうね。ほんとに大きいことだと思うんですね。

だけど、ことが大きすぎるから、アイヌ自身が、多くのアイヌの人たちが、こういうことに関わることに、ちょっと戸惑いを感じていたりとか、考えられないことだったりということも、たぶんあるんだと思うんですね。僕なんかはまあ、自分の先祖のことなんで、自分のことなんで、いろいろ勉強してきて、こういうことはすぐ理解できるんですけど、もっとほかの多くのアイヌの仲間たちにもこういう話が、普通にもっと届けられるような環境づくりというのも、やっぱり作っていかなくちゃいけないだろうなっていうふうに思うんですね。

さきほど何名かからそういう話がありましたけど、こういう大事なことをアイヌ同士で議論する場っていうものがやっぱり必要なんですね。そういうものを実現したくて、自分なりの活動ってものをやってるんですけど。

その中で浦幌の方たちと知り合えたり、平取の木村さんなんかとかも

知り合えたりですね、個人的にはそういう関係性もできて、アイヌの中で同士の人たちがいろんな地域に（いて）、出合えたので、もう少し時間はかかると思うんですけど、われわれアイヌ自身が議論をしていく場、議論するだけじゃなくて、議論したことを、ひとつの目標を、みんなで協力して達成していくってことをやっていける組織っていうのを、できていると思うんで。そういうものがあればですね、この先住権の話だけじゃなくて、先ほどの遺骨を取り戻すってこともそうですし、いろんなことが自分たちの手に取り戻せるような時代が作れるんじゃないかな、っていう思いで私はいます。

紋別の畠山さんがシャケを捕って警察に捕まる（告発を受ける）っていうことがあって、アイヌ自身の、何て言うんですかね、基本的な権利（が無視されていることに対する怒りを率直に表現したことで）、アイヌ自身を「そりゃそうだろう」っていう気持ちにさせてくれたと思うんですよね、あの行動ってのは。そういう大きな呼び水になったと思うので、こういう話を、いま畠山さんはここにいないですけど、みなさんとこういう話をできるってことは、ほんとに意義の大きいことだと思います。

貝澤耕一さん

一回りしたんだよね。話し足りないちゅう人、いませんか？ 私はもう 70 過ぎ、宇梶さん 80 いくつって言ったけど、私も 70 過ぎてから、先頭に立つ自信はないし、期待するのは 30 代 40 代の人なんだよね。一番元気があって、一番行動できる。そういう世代が、できればひとつになって。

はっきり言って、アイヌ協会は頼りになりません。これははっきり言います。というのは、昔のアイヌ協会は全道の支部ときちっとつながってました。いまのアイヌ協会は本部から（地元）に指令がくるだけ。特別、何の力もないんですね。行政の言いなりになっているアイヌ協会になっちゃってます。ですから、アイヌの声を届けるつつつても（道アイヌ協会に期待しても）それは無理だと思います。

そうであるならば、若い人たちで、まあ全国ですよ、北海道だけでなく、東京にも京都にも、あちこちアイヌがいます。そういう人たちを集めてどうやってくかちゅうことを、手をつないでいただきたいなど。それは、声を出すのは、浦幌からでもお願いします。どこから声出してもいいんです。いま指名された人がいますよ（笑）。譲り合わない、譲り合わない（笑）。

アイヌ自身が、先ほど言ったように、手をつないで、みんなでがんばらなきゃ、これ、どうしようもないんですね。アイヌ協会に頼ってもダメです。これはみなさん、このごろ分かってきていると思います。昔のアイヌ協会は、行政に思いっきり抗議したり、いわゆる権利を勝ち取ってたんですけど、いまそれをやろうとしないんですね。行政の言いなり。それはどこで分かるかと言ったら、ウポポイを見てても分かります。

ウポポイができる前の会議に何回か出ていて、「（職員の）少なくとも



署名呼びかけ賛同人

Atuy / 安藤厚 (北海道大学名誉教授) / 飯島秀明 / 五十嵐健治 (紋別アイヌ協会) / 石井ボンベ (原住・アイヌ民族の権利を取り戻すウコチャランケの会) / 伊藤恵夫 (北海道 A A L A 連帯委員会理事長) 井上紘一 (北海道大学名誉教授) / 岩崎裕保 (団体役員) / 上村英明 (市民外交センター共同代表・恵泉女学園大学教員) / 梅澤悦子 (アイヌ協会斜里支部) / 岡崎享恭 / 岡田朋子 (北海道国際交流センター) / 小川隆吉 / 上條直美 (開発教育協会) / 川村兼一 (旭川アイヌ協議会) / 川村久恵 (旭川アイヌ協議会) / 木村二三夫 / 草鹿平三郎 (紋別アイヌ協会) / 草鹿靖子 (紋別アイヌ協会) / 黒田敏彦 / 黒田秀之 (さっぽろ自由学校「遊」会員) / 小泉雅弘 (さっぽろ自由学校「遊」) / 河内美穂 (東京在住 / 文筆業) / 小松澄江 (アイヌ協会厚岸支部) / 小松豊 (札幌郷土を掘る会) / 斎藤亜季 (地球・人間環境フォーラム) / 坂本有希 (地球・人間環境フォーラム) / 佐藤和利 / 佐藤雅一 / 佐藤裕子 (カトリック札幌教区正平協) / ジェフ・ゲーマン / 鹿田川見 / 島田あけみ / 清水裕二 / 曹金時江 (ハンマダン) / 立石喜裕 / 田中治彦 (上智大学グローバルコンサーン研究所) / 田畑豊 (札幌教) / 妻木征男 (アイヌ協会洞爺湖支部) / ティーター・ジェニファー / 殿平善彦 (一乗寺住職) / 豊村みどり (みらいのとびら) / 中島圭子 (モベック・サンクチュアリ・ネットワーク) / 七尾寿子 / 西原智昭 (星槎大学) / 畠山紀子 / 畠山勇志 (紋別アイヌ協会) / 畠山麻里 (紋別アイヌ協会) / 畠山雪江 (紋別アイヌ協会) / 花崎皋平 (さっぽろ自由学校「遊」会員) / 平田剛士 / 広瀬健一郎 (鹿児島純心女子大学) / 藤野知明 / 藤原寿和 (廃棄物処分場問題全国ネットワーク共同代表) / 本多淳 / 本多正也 (先住民族研究会) / 前田朗 (東京造形大学教授) / 牧口充枝 (札幌圏連帯労組) / 松澤聖子 / 松元保昭 (パレスチナ連帯・札幌) / 丸山博 / 三浦忠雄 (日本キリスト教団北海道アイヌ民族情報センター) / 三柴ちさと (日本森林管理協議会) / 水木彩也花 / 三輪敦子 ((一財) アジア・太平洋人権情報センター) / 門別徳司 / 八木亜紀子 (開発教育協会) / 山丸和幸 (一般社団法人白老アイヌ協会理事長) / 結城幸司 / 湯本浩之 (宇都宮大学 / NPO 法人開発教育協会) / 吉井健一 / 吉田邦彦 / 吉田浩正 / 若月美緒子

半分以上はアイヌを採用せよ」と言っていたんです。でも採用されていないんですね。「資格がない」「学歴がない」と。そんなの最初から分かってるんですね。アイヌには学歴もなければ資格もない人が多い。そういう中で、「経験と実力で採用せよ」と言ったのに、それもやらない。おそらく行って調べると、(職員全体の) 1/3、アイヌがいるかどうか分からない状態です。館長もシサムでしょ。それを仕切っている財団もほとんどがシサム。そういうなかでアイヌの声を届けるとするのは非常に難しい。

ですから、これからは私たちが踏ん張って、なんとかしていかなきゃ、国の思い通りになって、だんだんアイヌが^{ふぬ}腑抜けにされる。そういう谷間に来ている気がします。谷底に落とされようとしています。なんとか谷底から^は這い上がって国を動かす、と。

うちの親父(故・貝澤^{かいざわただし}正氏)はよく言っていました。「広い世の中を見なさい」と。「外国を見なさい、そして自分の立場を考えなさい」と言っていました。いま、ニュージーランド、オーストラリア、それからスウェーデン、フィンランド、ノルウェイあたりへ行って勉強してきたらいいと思うんですけど、いかにその先住民族の方々が自分たちで手を結んで、国に要求して、権利を勝ち取っているか。それを私たちは学んで、真似をしなきゃいけないと、そんなふうに思いますんで、若い人たち、よろしくお願いします。

はい、どうします？ まだ言いたい人？ なければ終わりにしますよ(笑)

宇梶静江さん

いまねえ、ごていねいなお話をお聞きして、感ずることがたくさん出てまいりました。かつて、日本はアジア各国に侵略しましたね。日本の軍人が外国に行って、現地の女の人たちとの交流で「あいのこ」がたくさんできるわけですね。その子どもたちが、仕掛けてきた日本に応戦するんじゃないかということで、日本の政府がとったことというのは、急いで日本から学者だとか芸術家だとかそういう者を現地に送り込んで、日本化させようとしたわけですね、混血の人たちに。それを私はある本で読みました。その仕掛け人というのは——大東亜戦争とも言うしナントカ戦争とも言います、私の子どもの時にあった戦争のことですが——そこにたくさんの兵隊、若い人たちを送り込んだ人たちは、当時の為政者、政治家でもなんでもなく、東大出の学者、あらゆる学者さんたちが、あの戦争を仕組んだそうですね。こんなこと、ウソだったら大問題になりますが、しかし公に^{おおよけ}発表されています。

私たちが子どもの時は学者さんはいっぱい、アイヌに近寄ってきました。その人たちは、よいことを書いて、記録を残してくれたかもしれない、それによって私たちは学んだかも知れない、しかし、そのアイヌたちを育成するために文字を教えたり、そういうアドバイス以前に、自分がたの論文を発表して、自分たちが学者になり……。たまたま外国に行って発表して、先住民族と交流するとかいろいろあっても……。

ウポポイの歌や踊り、貝澤先生のおっしゃるとおりです。私も気がつくことがいっぱいあります。そこに目を向けさせられてですね、魂を入れてくれてない。私たちアイヌは、狩猟をやったり漁労をやったり、たくさんの男の人たちが働いてくれて、女の人たちはそれを守って、成就したときにお祭りをして、みんなで歌ったり踊ったりして、自分たちも幸せだし、神に感謝する。神とともにあったアイヌがですね、いまこのような状態になってる。それでなくても、「アイヌになったらいいことはない」と思っている混血の人たちとか、アイヌの大人たちとかたくさんいらっしやると思う。(にもかかわらず)ウポポイを通じて、そちらに(好奇の)目を向けられやしないかと私は危惧したんです。

そういうこともね、若い人たちにお知らせしなきゃ、と。いまは政治が権利もくれないし、畠山さんが病院に入って(まで)頑張ってる(主張して)いるほどのこと(に対して)も(無視)されるほど(ひどい)日本の状態ですけども、明治・大正、その間も私たちを操作していたのは、大方の学者だったことが分かってきました。これを私、告発しなければ、みんな、目覚めないと思います。私、子どもの時に、あの田舎(浦河町姉茶)に、入れ墨をしたおばあさんのところに、いま学者として食べている人たちが、入り込んで、泊まり込んで勉強していったのに、そのおばあさんがた、次々に死んでしまうのを、悲しい思いで、私は見つめてきました。

そういうこともね、私の中にあります。みなさん、記憶の中にあることを、自分を語らなければ、アイヌというのは出てこないと思います。1人や2人のアイヌの問題ではなくて、自分にあるアイヌを語ることでアイヌ全体ができていくんじゃないかと私は思っています。

そういう思いの人がたくさんいます、アイヌの中で。そうでしょう？遺骨を土に帰す。自分の故郷に帰す。それを一生懸命やっている。アイヌの魂はすごく動かされているから。この会議もできるように、先祖は計らっているんですよ、私たちにね。そういうことを考えながら、先祖を敬い、先祖の残してくれた仕事、それを再現しなければ、アイヌは経済も確立できないし、自分たちの文化も継承していくことはできないと思っています。話、途中でですけど、話を広げさせてもらいました。ありがとうございます。

貝澤耕一さん

ひとつ忘れていました。さきほどみなさんに回した、署名していただいたもの、このままにしたらいへん失礼なので、いま私が考えているのは、今年度中に北海道知事、そして総理大臣——だれになるかわからないけど——、できれば提出したいと思っています。もっと集めていただければ幸いですので、よろしくお願いします。

ということで、メディアがいると思うような話ができないという意見がきています。それで、メディアはこのへんでお暇していただきたいんですけど、いかがでしょうか。お願いします。

署名呼びかけ賛同団体

アイヌ政策検討市民会議／アオテアロア・アイヌモシリ交流プログラム実行委員会／アジア太平洋資料センター(PARC)／APLA(Alternative People's Linkage in Asia)／カトリック札幌地区正義と平和協議会／「環境と先住民」政策研究センター(Cemipos)／グループシサムをめざして札幌／原住・アイヌ民族の権利を取り戻すウコチャランケの会／札幌圏連帯労働組合 札幌市に人種差別撤廃条例をつくる市民会議／さっぽろ自由学校「遊」／静内アイヌ協会／市民外交センター／市民社会スペースNGOアクションネットワーク(NANCiS)／日本キリスト教団北海教区アイヌ民族情報センター／熱帯林行動ネットワーク(JATAN)／不戦へのネットワーク／北海道NGOネットワーク協議会／紋別アイヌ協会／ラポロアイヌネイション(旧称・浦幌アイヌ協会)

署名用紙 Signatures

カムイチェプ＝サケ に対するアイヌの権利回復を！

Regain The AINUS' Right for Kamuycep!

Kamuycep, salmon in AINU, swims up a river from the sea in autumn. It has approximately been 150 years since the Japanese Government monopolized the spawning kamuycep in Hokkaido, that is one of the most valuable natural resources to AINU peoples. Then, they have been restricted to the self-management for kamuycep fishing. WE claim to regain the AINUS' right for kamuycep.

カムイチェプは「神が与えてくださった魚」を意味し、秋に海から川をさかのぼってくるサケを指すアイヌ語です。

アイヌにとって、もっとも大切なカムイチェプを、日本国家が一方的に独占しておよそ150年。先住民族アイヌは、自由なカムイチェプ漁を厳しく制限され続けてきました。アイヌがカムイチェプ＝サケを採るための許可を得る必要があるのは、大自然の神たちだけです。

私たちは、カムイチェプ＝サケに対するアイヌの権利回復を訴えます。

アイヌ（＝ひと）の権利をめざす会

共同代表 貝澤耕一／萱野志朗／田澤 守／OKI／宇梶静江

内閣総理大臣ならびに北海道知事 各位

カムイチェプ＝サケに対するアイヌの権利回復を訴えます

署名 signature	住所 address

取りまとめ・署名簿の送り先

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目

愛生館ビル5F 501 NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」内

アイヌ政策検討市民会議事務局

TEL:011-252-6752 FAX:011-252-6751

<https://kamuycep-project.jimdofree.com>



ネット署名